

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

キリストの教会誕生

「ペンテコステ（五旬節）」は教会暦では「聖霊降臨日」とも呼ばれる

この日、イエス・キリストを信じる者たちの群れが誕生し、

信じる者の上に降られた「聖霊」によって、キリストの群れは、世界宣教へと導かれた

二千年前、キリストが昇天された直後の「ペンテコステ」の日に、エルサレムで、不思議な現象が起こった

聖霊に満たされた弟子たち、「異言」で福音を語り始め、エルサレムに巡礼に来ていたユダヤ人の一人ひとりが、自国語で語られた福音を聞いたのであった

→② 神のご計画の担い手キリスト

人類救済の神のご計画

神は、ヘブル語（旧約）聖書に、いろいろな形で、「人類救済」のご計画を織り込まれた

「救い主」に関する「メシヤ預言」

* 救い主到来の最初の預言は、創世記3：15

* 救い主の地上での御働きは、イスラエルの「主の例祭」に織り込まれた
レビ記23章

⇒この例祭の次第通りに、キリストは歩まれた

キリストによる預言の成就

聖書の中のキリストに関する預言のうち三百以上、すでに正確に成就

三十六、七歳の生涯の間に、同一人物に関する三百以上の預言が成就する確率は驚異的
『八億三千万回に一回』！

⇒聖書の主張の正しさを立証

「聖書は、人知をはるかに越えた神の靈感によって書かれた書、神ご自身の言葉である」
ペテロ第二1：20-21、テモテ第二3：16

→⑧ 「主の例祭」に織り込まれた神の人類救済のご計画

主の例祭

レビ記23章

神が制定された「聖なる会合として召集する主の例祭」

1. 週ごとの「安息日」

2. 一年のうちに定期的に召集しなければならない七つの例祭

※ 第一の例祭「過越の祭り」と第二の例祭「種を入れないパンの祭り」

イスラエルの民の出エジプトの出来事に因む、神の救いと顧みを覚え、祝う祭り

※ 第三番目 初穂の祭り

大麦の収穫の始まりを画した春の祭り

※ 第四番目 七週（ペンテコステ）の祭り

小麦の収穫の始まりを画した初夏の祭り

聖書

「七週（ペンテコステ）」の祭りのさまざまな呼称

1. 「**収穫祭**」 出エジプト記23：16
2. 「**初穂の日**」 民数記28：26
3. 「**五旬節の日**」^{ごじゅん} 使徒の働き2：1
春に「**収穫の初穂の束**」をささげた日から数えて五十日目 レビ記23：10-11
この日、二個のパン塊（小麦の初穂のパン）が主に捧げられた
4. 啓示の祭り
⇒後世、ラビたち（ユダヤ教）、シナイ山での律法授与の出来事に関連づけた

律法授与の出来事

イスラエル人、「第三の月の新月のその日に、シナイの荒野に入った」（下線付加）

出エジプト記19：1

⇒第三（シバン）の月の六日（「七週の祭り」の日）、神、イスラエルの民に律法を授与

レビ記23：10-22

二つの例祭の密接な関係

第三番目と第四番目の祭りは、どちらも収穫の「初穂」を主に捧げ、祝う農耕祭

⇒大麦の初穂の収穫の後初めて、小麦の初穂が収穫された

⇨「キリストの甦り」と「教会誕生」を象徴

春の祭り

第三番目の例祭「初穂の祭り」に反映された「キリストの甦り」の出来事

1. 大麦の収穫の初穂を神に捧げる
⇨キリストの甦りは、信じる者たちの甦りの先駆け
キリストが受難された週、「初穂の祭り」は「過越の祭り」の三日後に祝われた
2. 「初穂の束」は、最初で最上の産物
⇨キリストの最高の資質、本質
3. 初穂を神に捧げる儀式は、安息日でも遵守されるほど重要であった
⇨新創造を画したキリストの甦り^{じゅんしゅ}
4. 「初穂の束」は「穀物のささげ物」とみなされ、「パン種」を混ぜてはならなかった
レビ記2：11
⇨キリストは「罪のない方」、完璧ないけにえとして、捧げられた
5. 「初穂の束」が揺り動かされたのは、早朝
⇨キリストは「初穂の祭り」の日の夜明け前、甦られた
6. エルサレム外の住人、真昼以降「初穂の束」の揺り動かしを確認
⇨キリストの甦りの事実が弟子たちに確認されたのは、夕方であった

「初穂の束」を捧げる「日」の決定

「安息日の翌日、それを揺り動かさなければならない」（下線付加） レビ記23：11、：15

この「安息日」の定義

- (1) サドカイ人の見解：週毎の安息日
⇒「初穂の束」は、日曜日に揺り動かされる
- (2) パリサイ人の見解：「大いなる安息日」（「種を入れないパンの祭り」の初日）
⇒「初穂の束」の揺り動かしは、週の何曜日にでもなり得る



初夏の祭り

第四番目の例祭「七週（ペンテコステ）」の祭り

「かまを立穂に入れ始める時から、七週間を数え始めなければならない」申命記16：9

「初穂の束」の揺り動かしの日から「七週」を数えた五十日目

聖書

「ペンテコステ」の祭りの次第

- * イスラエルの地に育ったものが捧げられた
- * 産物は「小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブ、蜂蜜」の七品目
申命記8：8
- * 大麦以外の六品目、このとき初めて主の御前に捧げられた
- * 祭りの当日、巡礼者たち、エルサレムに向けて神を賛美する歌を歌いながら行進

- * 巡礼者たちが外庭に入ると、レビ人たち一斉に、詩篇30：1、一家をささげる歌—を唱和
- * 巡礼者たち、①申命記26：3を祭司に次いで復唱
産物を、祭司と一緒に主の御前に揺り動かした
- * 巡礼者たち、②申命記26：5-10を祭司に次いで復唱し、産物を祭壇の横に置き、退場

捧げられた「種を入れて焼いた二つのパン塊」

- * 二つのパン塊のささげ物、「パン種」を入れて焼かれた
- * パンは前日に焼かれた
- * 各パン塊は幅30cm長さ60cmの大きさ
- * 「ペンテコステ」の日、
二つのパン塊は青銅の祭壇に運ばれ、祭司、それらを主の御前に揺り動かした
祭壇で焼かれることなく、祭司のものとなった

「ペンテコステ」の祭りの預言的洞察

- 「初穂」の概念、「神の民」を物語る
- ☆ 誕生した教会は、「キリストの民」の初穂
 - ☆ 神の民は「主にとって聖なるもの」
エレミヤ書2：3
 - ☆ 教会の時代のキリスト者も「初穂」 ヤコブ1：18
 - ☆ 終末末期の艱難期に、「小羊と父との名」のしるしが付けられる十四万四千人も「初穂」
- ⇒ キリスト、この「初穂」の概念を成就、完成 コリント人第一15：20-23
1. パン種を入れない「穀物のささげ物」は、主に捧げられた「罪のない聖いささげ物」
 2. 「初穂」は、新しい「甦りのいのち」、キリストの甦りを象徴
 3. キリストの「甦り」によって、続く者たちの「甦り」が保障された ローマ人8：11

キリストの初穂の民、教会誕生

- 「パン種を入れて焼かれ、主に捧げられた二つのパン塊」に象徴
- ⇒ キリストを受け入れ、霊的に新しくされた人たち、キリストによる贖いのゆえに、
罪あるままで神に受け入れられた
 - ⇒ すべて神を求める者、同等に神の赦し、救いにあずかることができるようになった
 - ⇒ パン種が混じったままで受け入れられた教会、現今の世では、決して完璧ではない
教会が完全に聖められるのは、キリストが「再臨」される時

父なる神の約束、聖霊降臨

キリストの弟子たちが「異言」で語り始めた「福音」を自国語で聞いたユダヤ人たちに、
霊の覚醒が起こった

この出来事がユダヤ人たちに与えたインパクト

1. イザヤの時代に起こった異例な出来事の再現か…
当時、神は聞く耳のないイスラエルの民に、異国語で語られた
イザヤ書28：11-12

聖書

2. シナイ山で、「ペンテコステ」の日に律法（トーラー）を授与されたとき、神、その当時の世界のすべての言語、七十の異なった言語で話された（イスラエルの伝承）

⇒結果は、三千人の魂の救い 使徒の働き2：41

ユダヤ人にとって、今日の「七週」の祭り

祭りの強調点は、農耕祭からシナイ山での「律法授与」の出来事に移動

中世以降、幼い子どもたちを律法へと導入する習慣確立

⇒子どもたちに、律法（トーラー）を学ぶことの甘さを教える 詩篇19：7-11

シナゴグでの聖書朗読と祈りの箇所：

ルツ記、詩篇、出エジプト記19、20章

⇒キリストご自身が預言的に教えられたように、キリスト受難の年の「ペンテコステ」の日以来、**メシヤを通してすべての民が救われる時代の到来** ヨハネ10：14-16

異邦人ルツの救いは、異邦人の救いのひな型 ルツ記

「ペンテコステの祭り」でささげられたパン塊、「二つで一つとみなされた」

→「合体」を象徴

⇒同様に、教会も、キリストにあって一つに結び合わされた結合体

教会

「主がお召しになる人々（呼び出された者たち、“エクレシア”）」の意

キリストの血によって贖われ、聖霊を通してキリストと合体した者たちによって

築き上げられるキリストの民の群れ

教会は、「ペンテコステ」の日に誕生

使徒の働き2：39

隔ての壁

後世、使徒パウロ、キリストが「隔ての壁を打ちこわし」、二つのものをご自身において新しい一人の人に造り上げ、十字架を通して神と人との和解を実現してくださったこと、信じる者はみな、このキリストによって、父の御許に近づくことができるようになったことを説いた エペソ人2：13-18、ガラテヤ人3：28

⇒「七週の祭り」は、この「隔ての壁」の取り除きを予兆

千年支配のメシヤの時代

エゼキエル、「あらゆる種類の初物」が祭司のところに運ばれることを描写

エゼキエル書44：30

⇒「ペンテコステの祭り」への言及かもしれない

夏の祭り「ペンテコステ」に続く主の例祭は、秋の祭りの最初「ラッパの祭り」

その間は四ヶ月近くと非常に長い

⇒この長い期間は「教会の時代」、一今日の異邦人宣教の時代— を象徴

教会の時代

ユダヤ人に対する神のご計画の中で、ユダヤ人以外の全人類の救いにも焦点が置かれたイスラエル史にとっては「枠外の時代」